

3101

大都會の餓鬼道  
農村の天上道

昭和十九年四月十五日

都會人

「体重は五貫目減つた。  
一日二合の飯で

副食物は

何にもない。

物價は十

倍にあつて、収入

は三分の一にあつた。

これで生きて行けるの

奇蹟だね。



農村人

「体重は五貫

目ふえた。

食料は

有り餘る

程で、しかも

収入は一躍十倍

にあつたよ。これ力

奇蹟かね？！



3102

舌端火を吐く。火、水とふる

昭和十九年四月二十日



火は水

あり。

水は

坤輿を

覆へ

霊

は

魅

は

祥

瑞を

覆へす。

賢は愚

あり。愚

は社稷を

覆へす。





3103

皇軍インパールを強襲す

昭和十九年四月二十三日



3104

文化勲章(第四回)

昭和十九年四月二十九日



理学博士 帝国学士院会員 田中館 愛橘 八九

文学博士 帝国学士院会員 高楠 順次郎 七九

文学博士 帝国学士院会員 狩野 直喜 七七

医学博士 前京城大学総長 志賀 潔 七五

医学博士 帝国学士院会員 稻田 龍吉 七一

工学博士 及大教授 岡部 金次郎 四九

志賀

稻田

岡部



高楠 田中館 狩野 野

3105

# 四無

昭和十九年五月三日

君臣無義



相かはらぬ  
物のわか  
らぬ  
馬鹿殿  
様じゃ。

支婦無別



「ご免おさいと  
言はふまで  
明日から  
飯を  
あげ  
ないよ。」

# 四無

父子無親



「親に権利は  
ない。親は子  
を撫育する  
義務が  
ある。」  
走れだ。

長幼無序



「兄きより  
僕の方  
が利巧  
だ。おん  
みん  
なぞう  
言つて  
おん  
よ。」



3106

三國の魂膽

昭和十九年五月七日

英俺は獨ソを咬み  
合せて置いて、米の  
禪で全政を  
捲き上げる  
のだ。

米俺は獨ソ  
共倒れを期  
待して  
ゐる。

ぞし  
て英  
の遺  
産を  
擡き  
さらふ計  
画だ。

ソ聯俺が

獨伊を叩き

潰せば、米

英は腰をぬかす、

全世界を丸呑みに

するの掌をかへすよりも易い。



3107

# 獨軍退却又退却

昭和十九年五月八日



獨ノ戰線

生かさず殺さず。  
頼らしむべし、知らしむべからず。

昭和十九年五月十日



「旦那！どうして下さる？これじゃー

とても生きては行かれませんよ。

一体ドーしてこんか。

事にあるんで

すか？ハッキリ

と合点の行く

ように説明して

おくんますい。

「アイヤ、汝等を見殺

しにはせぬから屹と安心

致せ。とういふ事にあるのも

極秘の事情のためで、

絶対に口外することは

まかりふらぬ。

汝等とは、たゞ

政府を

信頼

して

安心

して居れば  
よいのじや。



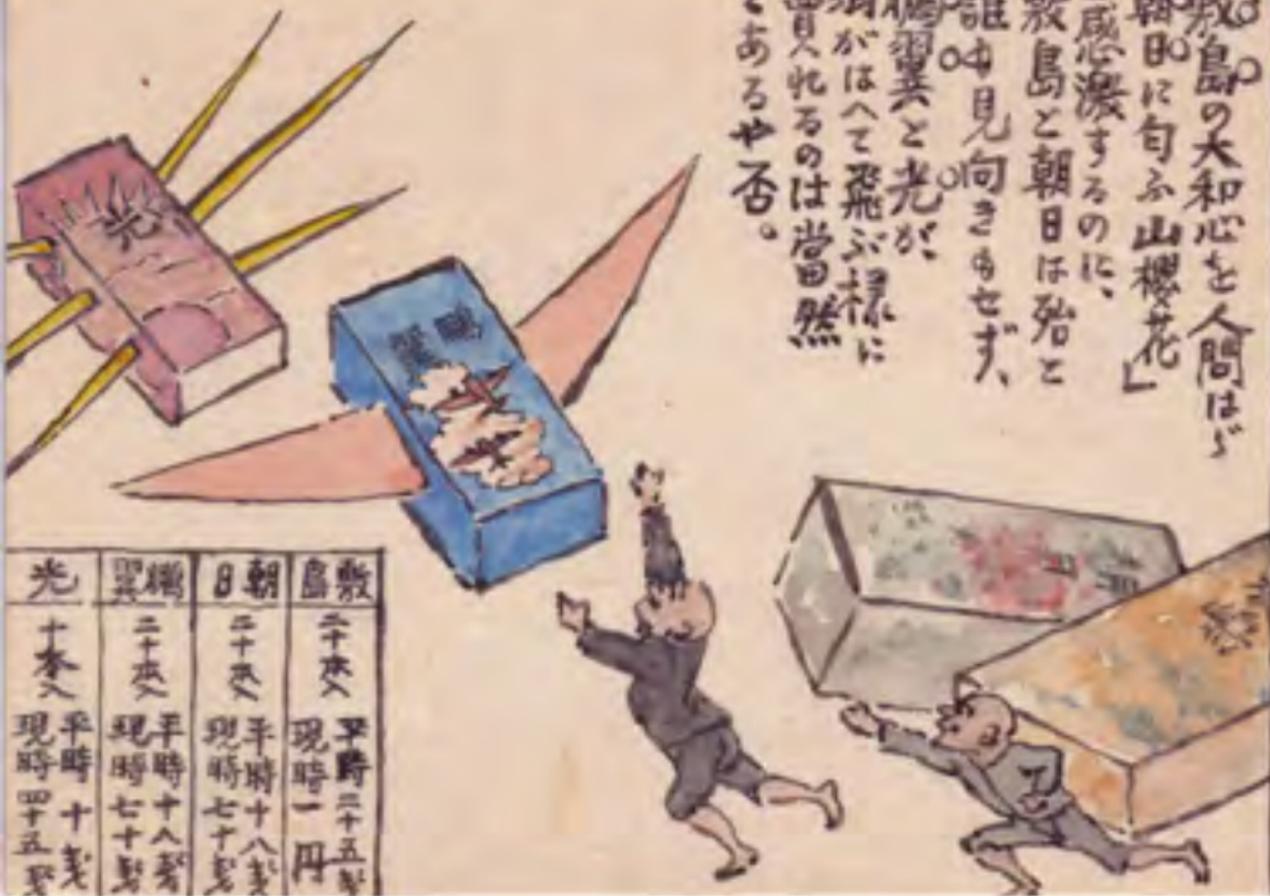
3109

# 煙草問題

昭和十九年五月十四日



敷島の大和心を人間は  
 朝日に匂ふ山櫻花  
 二感涙するのに、  
 敷島と朝日は殆ど  
 誰か見向きもせず、  
 鴉翼と光が、  
 羽がはへて飛ぶ標に  
 貴人れるのは当然  
 であるや否。



光	翼	朝日	敷島
十支	二十支	二十支	二十支
現時 四十五	現時 七十	現時 七十	現時 一円
平時 十支	平時 十八支	平時 十八支	平時 二十五支



3110

慎  
腦  
夢  
か  
夢  
に  
非  
ず  
幻  
か  
幻  
に  
非  
ず  
昭  
和  
十  
九  
年  
五  
月  
十  
八  
日



3111

人間の闇相場

昭和十九年五月二十三日



甲  
酒あら  
一升三十円出せば  
いくらでも飲め  
るから有り難  
いね。

乙  
「おれは一升  
五十円出し  
てゐる。」

丙  
「それは当  
然だ、  
無知無能の阿呆  
でさへ一日何十円  
をかせぐ  
じやないか。」

丁  
「それ所ではふい  
上手に立ち  
廻る奴は、  
一日千円を儲  
けるね。人間の闇  
相場は全く底あしだ。おれを  
年百万円で買ふ奴があるかも知れん。」



3112

アイゼンハウアー  
一石博士とルーズヴェルト

昭和十九年五月廿四日



一石博士

「拙者は猶太人であり、同時に世界一の  
数学者である。  
猶太思想の透徹せる術数と、  
科学の微妙なる算数から、  
ルーズヴェルトを



第四回の大統領に推薦

すべき決論に到達するのである。

全世界の土地を統一併合し、

全世界の富を壟断し得る者は、

世界にたゞルーズヴェルト一人

あるのみである。

故て一石を投じて諸君の覚醒を促すのである。



3113

洛陽既に落葉

昭和十九年五月二十五日



# 石油輸送圖

昭和十九年五月二十八日



合計	昨年比放ける世界石油の推定生産額	
	単位千トン	割合
米	203,000	66%
メキシコ	47,000	15%
カタタ	13,000	4%
ブラジルの	12,000	4%
トルニ	11,000	4%
ペルー	10,000	3%
INDIA	10,000	3%
ソ	10,000	3%
ルイジアナ	5,000	2%
ドイツ	1,000	0.3%
ハンガリー	1,000	0.3%
イギリス	1,000	0.3%
イラン	1,000	0.3%
イラク	1,000	0.3%
ペー	1,000	0.3%
その他	6,800	2.2%
合計	307,000	100%

— 海上輸送路  
--- 陸上輸送路  
||| 油送管  
--- 未完成輸送管



3115

# 頭脳と手腕

昭和十九年五月三十一日



「頭は相當に良いの  
だが、活用が出来  
ないもので、  
百日の  
長考  
一文に  
もあら  
ず  
である。



「この腕を見ろ、  
萬貫の鐘を  
引きづる力  
はあるが、  
頭腦が零て  
何の役に  
も立た  
ない。



3116

# 敵米日本空襲を妄想す

昭和十九年六月五日



3117

第二戦線開始

昭和十九年六月八日

英米軍佛国沿岸に上陸す



独「待つて  
居た、  
サ一  
来い  
来れ。

英米軍  
「お待ち遠ふ  
さま、  
サ一  
行くぞ。



3118

第二戦線獨有利

昭和十九年六月十日



扶国強兵



腐國驕兵



0 20 40 60キロ米

英佛海峡



3119

敵機北九州八幡製鉄所を襲ふ

昭和十九年六月十六日



敵機二十、支那(福建)の方より來襲す。我が方二名の負傷を生じたるも、敵機七を撃墜し、三機を撃破し、敵を敗退せしめたり。製鉄所無事。

3120

# 世界攪亂の劫火

昭和十九年六月十八日



# 獨の怪兵器ロンドンを脅かす

昭和十九年六月二十日



甲「自動無人機といふものだ

乙「ロケット爆弾といふべきものだ

丙「ロボット爆弾と見做さへべきだ

丁「グレナダー爆弾といふ方がよい

がよい

戊「カタパルトから発射されるロボット機だ

己「無線操縦機だ



3122

# サエ。ハン島の肉薄戦

昭和十九年六月二十一日

日  
化け物の  
あぐり殺  
すぞ。



米  
「裏けらめ、  
ひぬり殺すぞ。」



3123

今昔？困弱物語

昭和十九年六月二十五日



昔時天下泰平  
今日世界大兵  
古往百姓安全  
今來萬民暗然

紅雲



今



昔



3124

サイパン島の悪戦苦闘

昭和十九年六月三十日



逝ける人

自三月一日  
至六月三十日

昭和十九年六月三十日



下瀬謙太郎七七

朝倉虎治郎七四

中桐確太郎七二

西 健

菱沼 右一六二

元帥古賀峯一

山田 敬亮

大橋新太郎八二

前田松韻六五

松岡 壽八三

阿部宗孝七〇

川上 新晴九〇

湯野川忠一六一

本多 惠隆

郷 隆五〇

陳 友仁六七

関 與三郎三五

池上 秀敏七一

長 連延六〇

横地 石太郎八五

小貫慶治

齊藤 斐章七八

市島謙吉八五

大瀬 甚太郎八〇

外川 松雄四九

林 仙之六八

込松秋江六九

磯谷 幸次郎八〇

宮本英脩六三

村田 祐治八一

大倉 桃郎六六

寶生 新七五

妹澤克惟五〇

俵 国一七一

中里介山六〇

水野 敏之丞

有馬良橘八四

木場 貞長八六

丘 淺次郎七七

中川 健藏七〇

フランク・ムクス

枝原 百合一六四

3126

思之思之不得鬼神教之

昭和十九年七月三日

(菅仲)



国家危急存亡の秋の当り、  
忠勇義烈の偉大なる政治  
家と俊邁なる軍界家の出  
現を翹望してゐるのですが、  
何卒神明佛陀の御指示を

給はりたく存じます。



世に伯樂あつて  
後千の馬あり

國に龍ありて  
龍を御すは

民を御すは

天を御すは





3128

米賊皇土を蹂躪せんとなす

昭和十九年七月十日



3129

# 皇軍

アサムに敵を殲滅す  
昭和三十九年七月十二日  
インパール占領を遂げ



ことわりや  
アサム  
赤龍嶺  
武者振の  
ヒマラヤ風  
天竺と吹く

くろが淵を  
容かす著  
さにはアサハ  
ヒマラヤの  
雪に空  
氷きて





3130

街路變じて菜園とふる

昭和十九年七月十三日





3132

## サイパン島の皇軍玉砕す

昭和十九年七月十八日



六月十一日敵軍襲来、  
十五日オレアイ附近に上陸、  
皇軍北方に後退す、  
二十六日タホーチ山陥落、  
戦線犬牙錯綜、皇軍の  
奮闘も果敢敵せず、  
七月七日より最後の  
突撃も敢行、  
十六日全軍戦死す、  
在留邦人の戦  
陣に参加  
せしものも亦  
た悉く之に  
殉ず。



戦死の三指揮官

最高指揮官 西雲忠一中将

陸軍指揮官 春藤中將

海軍指揮官 辻村少将

3133

# 東條首相挂冠

昭和十九年七月十九日



## 東條

「あゝ、シクダッタ。

天下別け目の

戦に負け

つゞけでは

居ても

起つて

い

られふ

い。一と

先づ身

を隠して

修養を積み

時機に乗じて

再び御奉公に尽す

致すであらう。





3134

ヒトラー暗殺危機  
昭和十九年七月二十一日



3135

東條内閣総辞職  
小磯米内組閣

昭和十九年七月二十二日



農林大臣	文部大臣	厚生大臣	逓通大臣	軍需大臣	司法大臣	外務大臣	大東亜大臣	海軍大臣	陸軍大臣	大藏大臣	内務大臣	総理大臣
島田俊雄	二宮治重	廣瀬久忠	前田米藏	藤原銀次郎	松茂廣政	重光葵	重光葵	米内政光	杉山元	石渡英太郎	大達茂雄	小磯国昭
六六	六六	五六	六三	七六	六二	五八	五八	六五	六五	五四	五三	五五

國務大臣	國務大臣	國務大臣
緒方竹虎	兒玉秀雄	町田忠治
五七	六九	八二





3136  
 敵軍大宮島今も島を脅す  
 昭和十九年七月二十七日  
 大宮

3137

大災か否疎開、そうかい、

昭和十九年七月二十八日



江戸川筋の  
疎開、延長  
半里餘、  
惨憺として  
宛然大火災  
の跡の焼野  
原である。





3139

米鬼日本兵將の髑髏を弄ぶ

昭和十九年八月五日



「七たひ生き還つても、  
米鬼を殲滅せずには  
措くべきか。」



ゴリヤどうしや、

日本兵將の髑髏

だと言ふから安心して

見れば恐ろしいバケ物だ。指が五

本で、角が無いなどは珍らしい怪物だが...



3140

衡陽陷落

米支基地支離滅裂

昭和十九年八月十日



## 敵軍襲來

西九州・北九州・山陰・  
 南朝鮮之類之逃去

昭和十九年八月十一日



萬花易散實難成  
 一瞬苟安不可輕  
 未醒弘安神風夢  
 庭前敵機聽爆聲



3142

百圓均一店 特別廉賣

昭和十九年八月十二日



産みだて  
の大卵  
百個入り  
とす



真正の獣皮とす



真正の  
羊毛とす



最上の銘  
酒二本正  
しく一升入とす



純真の白砂  
糖五百粒とす



小磯首相に  
贈られたの  
と同大の鯛  
でま目の下一



3143

# 米賊陝甘を奪はんと欲す

昭和十九年八月十九日



3144

# ルーマニア王ソ聯に降る

昭和十九年八月廿三日



「まだ  
独乙に加担  
して

俺に  
手向ふ  
つやりか  
手向ひす  
るなら  
一刀の下に  
斬り殺す  
までだ。



「かう手向  
ひは致しません  
独乙とは  
アツリと縁を  
切りました



3145

米英軍。ハリを蹂躪す

昭和十九年八月二十六日



英

米

獨

大

3146

# 前大戦と現大戦

昭和十九年九月三日



↑ 前大戦終了  
 ↓ 直前の敵軍の進撃



3147

# 秩序紊乱

昭和十九年九月七日



ベラボーめ、  
 これでも俺あ  
 神聖な  
 労働者だ。  
 一ヶ月千  
 円の収入  
 だから、  
 酒と煙草代  
 丈けて一ヶ月  
 五六百円かっつ  
 ても平気お由のさ。  
 君達は安月給の  
 サラリーマンだろう  
 をれでよく生きて  
 行けるね。  
 アハ……  
 失敬失敬



3148

皇軍必死の惡闘 方面

昭和十九年九月十五日



日  
コウどの  
大木め  
片端から  
ふで切  
りだぞ

米  
コイツめ  
小粒に似合はぬ  
強い餓鬼だ



# 天虚に吠(萬)大実を傳ふ

昭和十九年九月十七日



3150

# 太平洋の洶れる迄 戦ひ抜く 日米の執念

昭和十九年九月十八日

敵機突進の想像経路





**3151**

獨國危懸存亡の秋

昭和三十九年九月二十一日

東虎西狼  
可以威嚇  
蝕牙囊爪  
不可咬齧

芬蘭  
聯に降る。

3152

劍戟光閃巴老島  
鮮血紅漂太平洋

昭和十九年九月二十二日



父「これが  
永遠の  
お別  
れにふ  
るかも知れ  
ません。  
左様なら。」



祖父「お国の爲じゃ、  
今更何の  
未練もない。  
孫「おとうちせん  
左様なら。」



3153

禍蕭牆の裡に在り米国の

昭和十九年九月二十三日



甲「いま」と息で日本を潰すといふは、億々戦論の弱音を吐く奴は国賊である。

乙「我が米国の無名の交戦は無意味である。しかも数千億の国帑を傾け、国民を塗炭に苦しむるは何事だ。一日も早く戦争を停止せぬはならぬ



3154

貪虎と慾狐

昭和十九年九月二十三日



米  
「近い中に  
日本を  
滅して  
支那  
を復  
き活  
させ  
てや  
る。何  
でも  
俺の言  
ふこと  
に服従  
しなけ  
れば  
おらん  
ぞ。」

北將



「御苦勞さま。日本を滅ぼす迄は  
服従しやう。それから先きの事は  
その時の事にしやうではあいか。」

3155

比率貧國對米宣戰

昭和十九年九月二十四日



「日  
ヒリッピン！  
しつかり  
やれ。」

比  
「ヤンキーめ、  
俺の領土を荒すと  
叩き殺すぞ。」



3156

# 東西力士競べ

量に於て西優るが、質に於て東勝るが、  
昭和十九年九月二十七日



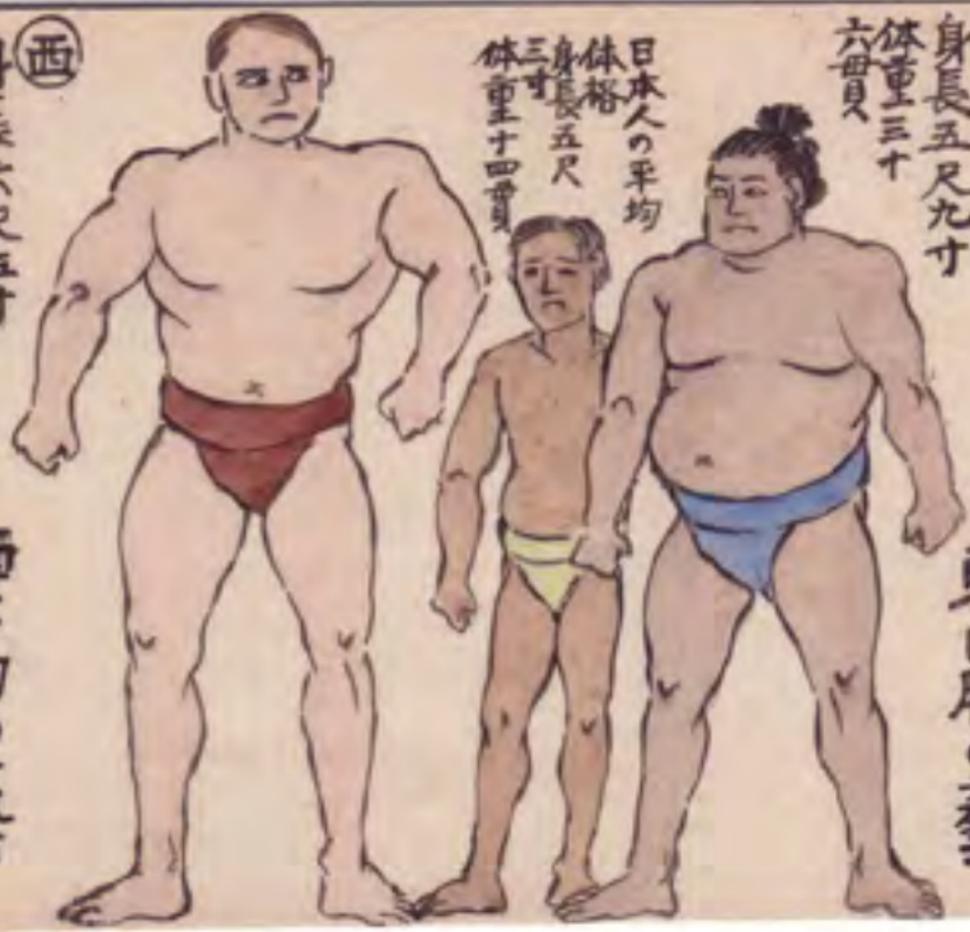
東西横綱格の標準体格

東は腹の藝

東  
身長五尺九寸  
体重三十  
六貫

日本人の平均  
体格  
身長五尺  
三寸  
体重十四貫

西  
身長六尺五寸  
体重四十五貫



西は胸の藝

3157

逝ける人

自七月一日  
至九月三十日

昭和十九年九月三十日



今井彦三郎八二

荒川五郎八〇

山梨半造八一

牛島隆則七一

堀内良平七五

向井哲吉八一

吉田慶三七八

加藤晴比古七五

坂本瑞男四九

名川侃市六二

酒井日慎九〇

足利瑞義七三

伯東久世通敏七六

清水賢一郎六八

根岸練次郎八九

田中穂積六九

吉田三郎六七

本野精吾六三

山崎亀吉七六

高須四郎

伯島津久範五二

今泉定助八二

平松市藏六六

荒木十畝七三

南雲忠一五六

田邊朔郎八四

松本君平七五

伯松平頼壽七一

太田黒重五郎七九

山邊習學六三

五來欣造七〇

青戸精一四三

市川市藏七六

大竹貫一八五

三井高光四七

中村房次郎七五

伊豆凡夫八一

菊亭公長五六

男原嘉道七八

小倉末五四

田丸節郎六六

3158

日本六臂獨逸二臂

昭和十九年十月七日





3160

# 汽車内の爲體

昭和十九年十月十七日



甲斐田工場の従事者、見らうとい一團が  
 汽車中、その時の体。視いて見らうに  
 故の米の飯に肉、魚、野菜の御馳  
 走、その上多量の酒を飲、食後は  
 は柿、梨、栗、何やら落花生らうとい豆  
 の類、たゞ流石に酒は遠慮してあた  
 先に角砂糖柄茶漬、水事ではある。



3161

# 米賊比率貧を侵す

昭和十九年十月十九日



米  
コラ待て、  
そんな糞  
カで、無茶  
苦茶はいぢ  
めでは困る。



日  
コラ待て等の首を  
チヨン斬らうか、  
捻ち切らうか、それ  
とも微塵に叩き潰さう  
か。

3162

# 四面魔歌の聲

昭和十九年十月二十三日

帝國艦隊出撃



3163

一對百に非ず別に必勝の法あり

昭和十九年十月二十七日



「ヤ、目出度く凱旋  
はよいが、一對十に  
當つて敵の  
首を被ぐの  
は面白くも  
ない。白兵戦  
ふら一對百に當  
らふければ勝て  
ないじやないか。」



「イヤ、ど尤至極だ、一對百にも  
午にも當らふければ勝てないが、  
別に必勝の手がある。天機は漏ら  
せふいが、大丈夫だから安心したまい。」



3164

# 日米決戦

昭和十九年十月二十九日



3165

忠犬身を殺して悪龍を斃す

昭和十九年十月三十一日

大博



3166

飛行機雲

昭和十九年十月五日



敵機帝都を訪問す

今日米国大統領選挙  
昭和十九年十一月七日



空襲  
や々!  
ふんだ?  
帝都探險  
の訪問  
機が。



「先づ英を踢着し、聯  
を繰縦し、支那を籠絡  
し、而して徐々に日本を  
降伏せしめんと  
する我が謀  
畧の牙へ  
よ  
を見



△通此天上天下唯我

獨尊四度大統領とあるは

當然至極の結果

である。

レイズウエルト

3168

# 獨逸腹背塵戰

昭和十九年十一月八日

獨逸圖





3170

# 敵機九州を襲ふ

昭和十九年十一月二十一日  
八幡小倉辺に寇す



敵軍八十餘機来寇  
 大軍軍その八割、即  
 ち六十餘機主屠る  
 我が方八幡小倉方  
 面に若干の損害を  
 蒙りたり。

皇軍  
優勢



371

レイテ灣戰將に決せんす

昭和十九年十一月二十四日



3172

敵機皇都を襲ふ

昭和十九年十一月二十四日



敵機B29

七十機東

京周辺上空に

侵入す。

我が戦果撃墜五

撃破九

3173

# 敵機連日皇都を脅かす

昭和十九年十月二十七日



敵機関東・東海道・近畿  
南部B29四十機内外を盲爆す。  
重要施設に被害なし。



No. 11  
D.P. Johnson  
アリエーション

No. 20  
C. Lemay  
全世界爆轟

No. 10  
H. Davidson  
印度、南洋

No. 17  
W.M. Hale  
ハワイ

No. 13  
H. Harmon  
南太平洋

3174

敵機未明皇都を襲ふ

爆音轟々冷雨蕭々

昭和十九年十一月三十日



敵機前夜半より全曉

まもなく東京を襲ふ

劫火隨處に起り損害

少くもあらざる

(敵機はオリエンより

来り編隊二十餘機

一萬メートルの上空より

投弾夫東京山梨

静岡地方を襲がせ

て去る)



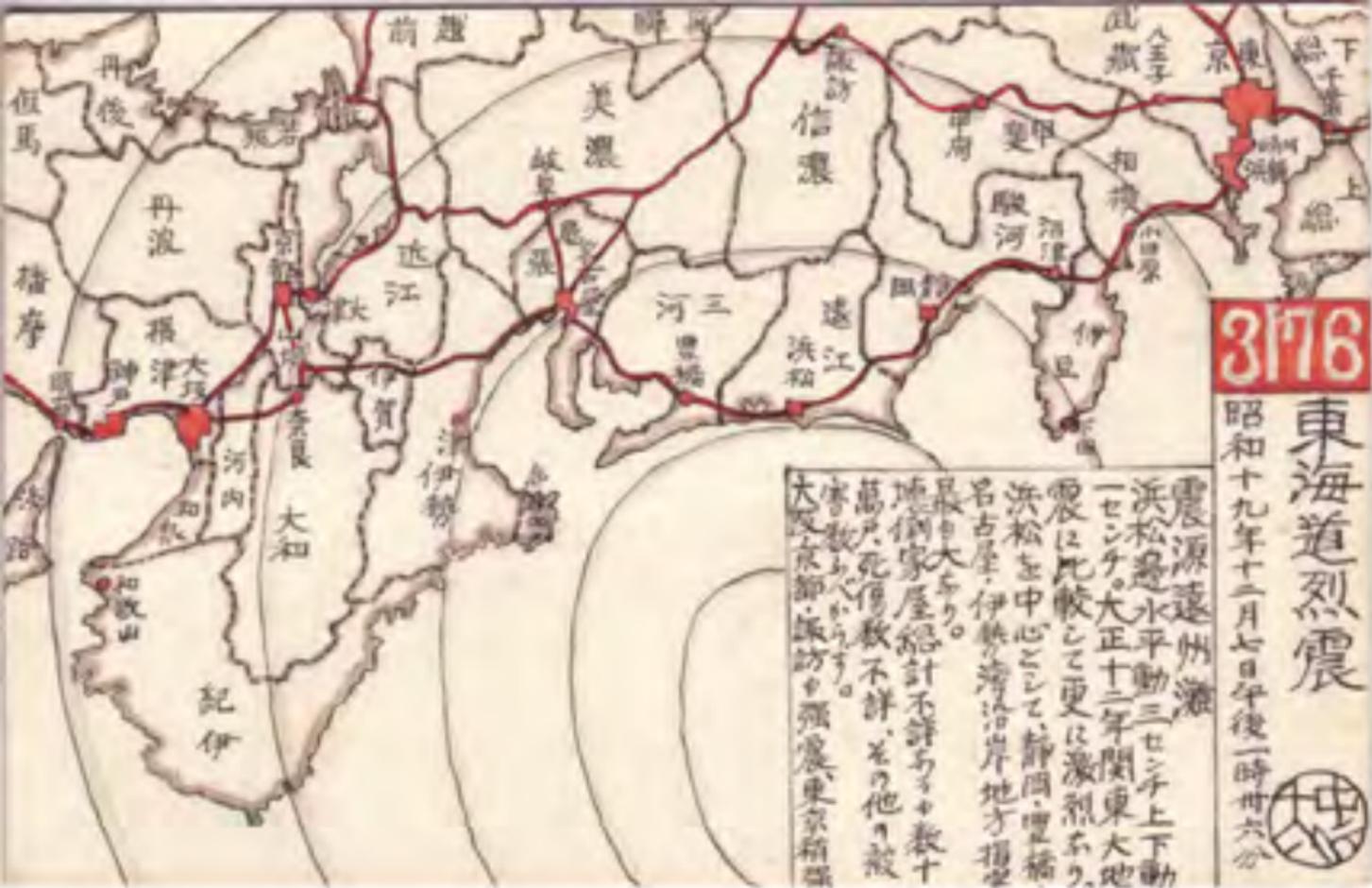
3175

敵機復た来る

昭和十九年十二月三日



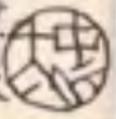
午後敵機七十餘、一萬米空  
の上空に遊弋し、帝都を空  
爆す。皇軍奮戦、敵の十五機  
を撃墜す。我が損害軽微なり  
追記 更に敵機六機を屠る



3176

# 東海道烈震

昭和十九年十二月七日午後一時卅六分



震源遠州灘  
 浜松邊水平動三センチ上下動  
 一センチ。大正十二年関東大  
 震に比較して更は激烈なり。  
 浜松を中心として静岡・豊橋  
 名古屋伊勢湾沿岸地方損  
 最中大なり。  
 地倒家屋総計不詳あり。教十  
 萬戸。死傷数不詳。その他被  
 害数も不明なり。  
 大正京師・諏訪中強震、東京箱根





3178

體當り

昭和十九年十二月十三日



3179

無禮なヤンキー 日本空襲 評判

昭和十九年十二月十四日



甲「日本空襲は面白  
いが敵も中々頑強  
だと言ふじやあいか、

乙「ナニ、日本おんが  
無知無能の蠻族  
だ、一ていきに

打倒しやう  
と思へばわけ

は無いさ、

丙「いや

来春独  
乙を降服

させて、それから  
日本を叩きつぶす

のだから、  
来秋までは

日本も持  
ちこたへる  
だろう。



3180

# 妖火陰々

昭和十九年十二月十五日



敵未空襲  
連日不息  
爆擊夷々  
燒彈炎々  
皇軍善戰  
國民能守  
老幼潛壕  
往々徹夜  
居無濕床  
寐不安眠  
食不適古  
病無醫藥  
地獄餓鬼  
畜生修羅  
四道混亂  
六根汚濁  
曠彼蠻夷  
何寇神國  
冀以稜威  
紛碎仇敵





3182

# 我は精神敵は器械

昭和十九年十二月二十三日



① この精神を  
發揮すれば  
宇宙を振  
動する。  
片々たら  
器械など  
は何のやく  
にもたぬ。

② この  
釘を  
一ツ  
押せば  
驚天動  
地の器械が  
働らいて、百万③

③ 田の兵中忽ちに塵を殺される。  
汝等如き未開の蠻族の知  
る處でない。





3183

敵は攻勢我は守勢  
我は鉄石  
彼は土塊  
昭和十九年十二月二十六日





逝ける人

昭和十九年十二月三十一日



伯 黒木 三次 六

田澤 義鋪 六

牛島 曹六 六

松本 修 六

熊岡 美彦 五

小野塚 喜平次 五

井出 薫

秋田 清 六

子 前田 利定 七

小坂 梅吉

亀田 豊次郎 六

永井 柳太郎 六

白勢 量作 六

田中 阿散磨 六

頭山 満九

清瀬 規矩雄 六

長谷川 良作 五

井上 哲次郎 九

中川 小十郎 九

太田 覺眠 九

堀 啓次郎 六

山下 龜三郎 六

元帥 口 マル 五

宮島 幹之助 三

小栗 孝三郎 五

永井 鳳仙 七

小金井 良精 七

櫻井 省三 九

三矢 英松 六

松本文三郎 六

千田 草妻太郎 六

倉知 鉄吉 七

山崎 静太郎 六

山本 信哉 七

気賀 勘重 七

木村 敏義 六

江 北 銘 六

多 忠龍 八

河野 桐谷 六

末次 信正 六

木下 友三郎 八

安田 耕之介 六

3186

## 畧譜

昭和十九年十二月三十一日



## 吉凶

結婚、村井敬三と長谷川花子

出産、村井雅晴産五男(長男)

死亡、村井清佐歿

婚嫁、平田玲子三浦家に嫁す

死亡、平田和一歿

婚嫁、箕田子 家に嫁す

死亡、薄文子歿

## 工事

高丘親王記念建築設計

平安神宮、大極殿研究

大東亜建築研究會 顧問

早稻田大學

## 公私関係

日本の建築

西片町会

東方仏教建築の保存

国際仏教協会

日本建築と大東亜文化

日森文化会館

同上

大阪南方院

平安神宮の懐古

平安神宮

大東亜建築概論 六回

帝大工学部

支那建築装飾 第五卷

座右堂刊行会

日本建築の美

築地書房

日本建築の變相

新太陽社

10 9 10 6 4 3 2

## 著作

## 演講

3187

昭和元旦(歳次乙酉)

昭和二十年元旦



樹下鳳雞啄虵虺  
天上龍夔熾魑魅

元日やおと  
し玉あり  
焼痰弾



3188

# 世界の三魔

昭和二十年一月三日



スターリン  
「萬事思ふ壺だ、  
うまく行くだ  
ろう。」



ヒズスター  
「日本の  
方も思  
はしく  
ホいが、  
佛ソ同盟  
の成立は困ったものだ」



チャーチル  
「西歐ブロッカ  
うまく行かん、  
人間万事塞  
翁の馬じや、  
いやさ、  
西歐の  
馬だ、」



3190

上海最近の物價の暴騰

昭和二十年一月五日



甲 成る程、そうすると

今日の牛一頭の  
値は事變  
以前の何  
に当るか。

乙

左様さ、馬  
百頭と鹿百  
頭だろう、それで  
馬鹿値にあるじゃ

あいか。

今日の値段と事變以前の値段

鶏卵一個の値 = 鶏三羽の値に当る

鶏一羽の値 = 豚八匹の値に当る

豚一匹の値 = 牛三十頭の値に当る



3191

# 日米表裏

昭和二十年一月九日



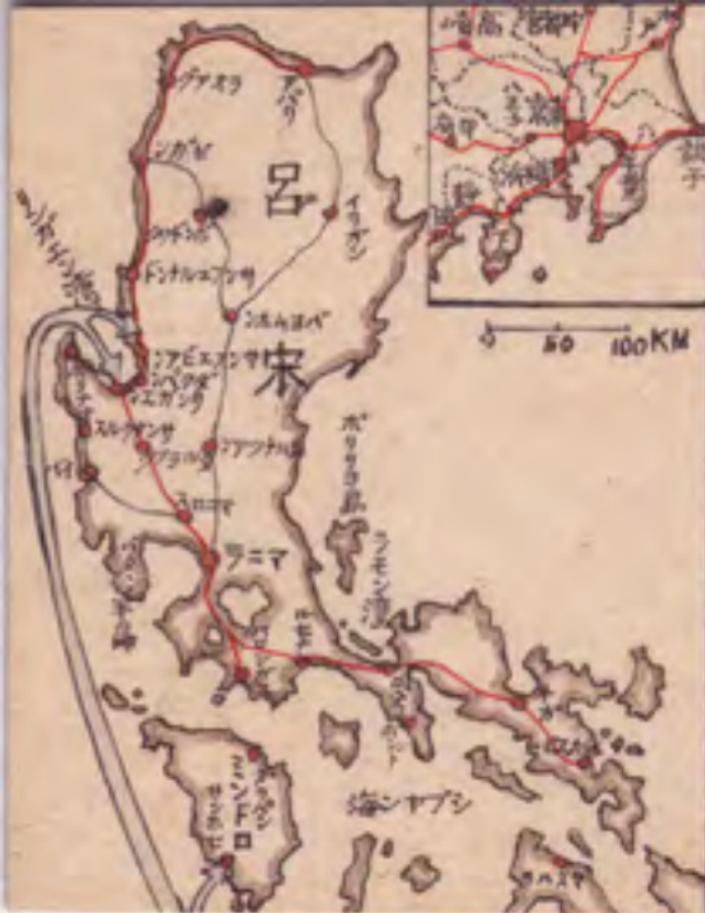
日本  
は今や危急  
存亡の秋である。  
国民必死の  
覚悟で  
努力せねば  
ならぬ。



米

「米国は今や將に  
日本を滅滅せんこ  
する瞬間にある、  
国民は鼓腹して  
勝報を待つが  
よい。アハ...





3192

昭和二十年一月十一日

米軍ソングエン湾に上陸す



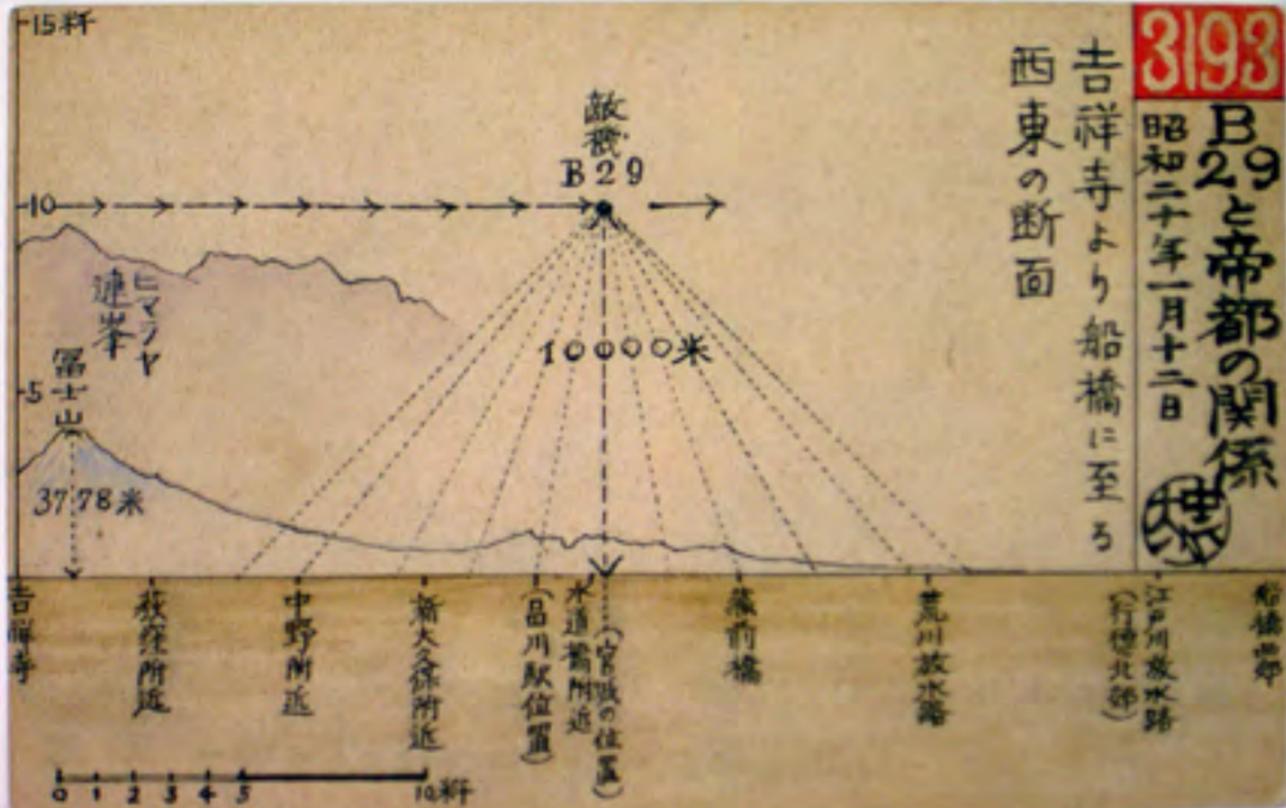
3193

B29と帝都の関係

昭和二十年一月十二日



吉祥寺より船橋に至る  
西東の断面





御正殿  
御安泰

3194

敵機外宮を爆撃す  
齋館、神樂殿を粉碎す  
昭和二十一年一月十四日午後二時半



昭和二十年一月十九日



問 際限のない税はどこ迄上がるか。

答 一万イトル迄上がるが、疾風・寒気、

空気が稀薄で苦しうなる。

問 食糧その他物品

商人の餓亡は如何。

答 非常不景七だが、

有る所にはウンと

ある、兎に角死ぬ程の枯渴の憂はふい。

問 大企業者連

ふどがどこ迄貸殖の利を獲るか。

答 日本全国の過半の資財を

獲得するが、重いつらは危険である。

問 敵米はどこ迄日本を壓迫するか。

答 壓迫すればある程

日本は反撥する。

問 何時世界の平和が来るか。

答 来る時に来る。

